



弟子屈の環境を守り 観光の発展を図る

～釧路公立大学地域経済研究センター「自然共生型地域観光の展開に向けての研究」の概要～



摩周湖・屈斜路湖・川湯温泉など優れた観光資源を有し、多くの観光客が訪れる弟子屈町。観光客は地域経済に収益をもたらす反面、ゴミや排気ガスによる環境プレッシャーを与える存在にもなり、環境保全という面ではひとつの課題となっています。

貴重な自然環境を地域の資源として守りながら、地域の安定的な発展に結びつけていくためには、自然環境の適切な保護、管理と利用が健全に組み合わせられ、次世代にまでつなげる地域の持続的な発展システムを構築していくことが必要です。

釧路公立大学地域経済研究センターでは、平成18年度から「自然共生型地域観光の展開に向けての研究」として北海道弟子屈町の摩周湖、屈斜路湖をモデルに、美しい貴重な湖沼資源を地域の持続的、安定的な発展につなげていくための地域発展、地域管理のあり方を探るための調査、検討を進めてきました。ここでは、観光による地域経済波及効果の分析を中心に研究概要をご紹介します。

環境問題にしっかり向き合いながら、魅力ある観光地として発展していくためには何をすればいいのか。

このテーマについて、地域の皆さんと一緒に考えていく一助になることを願っています。

研究代表 釧路公立大学 学長 小磯 修二

2008年8月

釧路公立大学地域経済研究センター

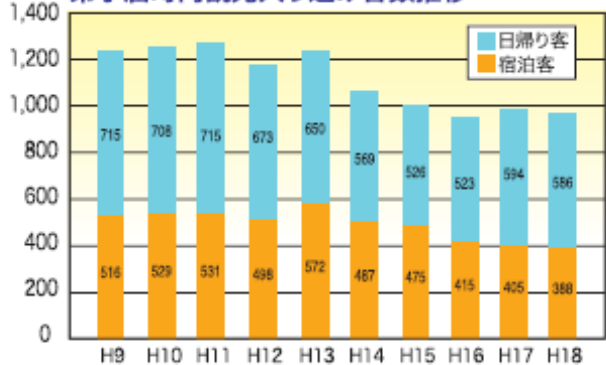
弟子屈町の観光の現状

- 年間観光入り込み客数は100万人程度、近年は減少
- 観光客の多くは夏期に集中

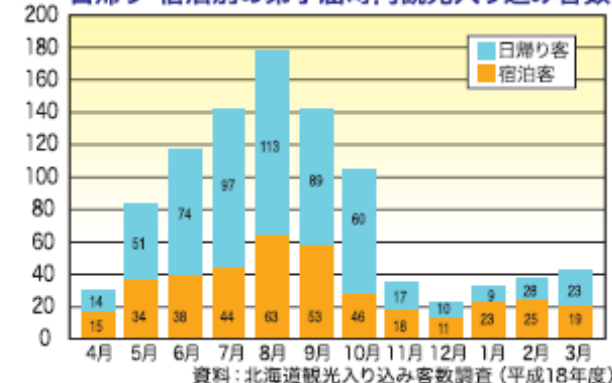
弟子屈町は、摩周湖・屈斜路湖・硫黄山などの優れた景勝地に加え、川湯温泉・摩周温泉の湯元でもあり、観光資源に恵まれた町です。

町に訪れる観光客数は年間で約100万人。人口9千人の町に、延べ100倍以上の観光客が訪れる観光に特化した町と言えます。しかし、観光集客の大部分は夏期に集中しており、また、近年は日帰り客・宿泊客ともに減少傾向にあります。

(千人) 弟子屈町内観光入り込み客数推移



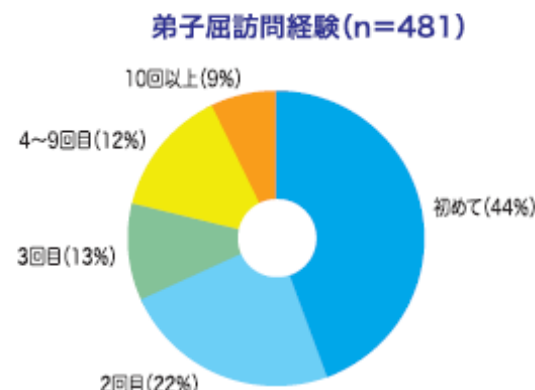
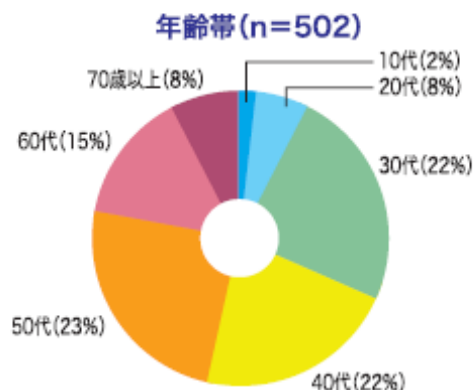
(千人) 日帰り・宿泊別の弟子屈町内観光入り込み客数



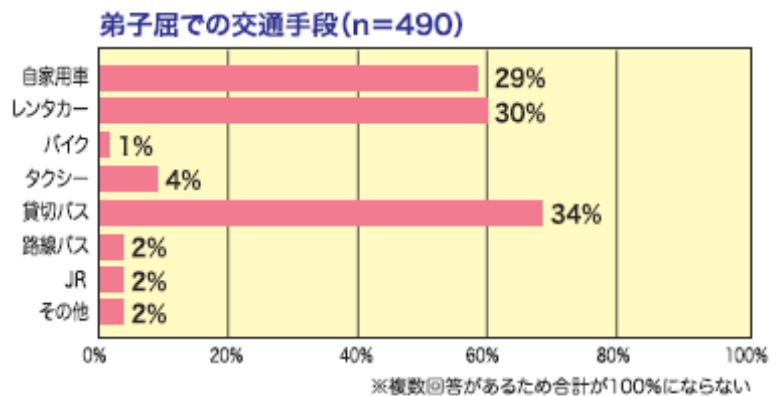
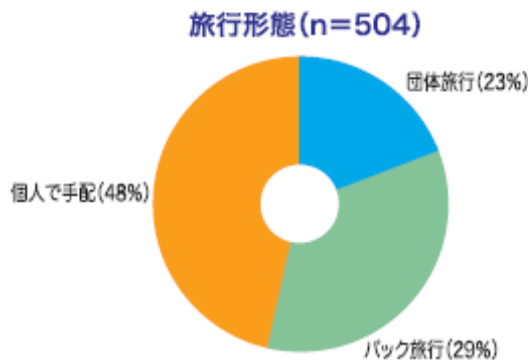
弟子屈町観光意識調査から～

平成18年度の夏と秋に、弟子屈町を訪れる観光客を対象にアンケート調査を行いました。その調査結果をもとに、弟子屈観光の傾向を見てみましょう。

- 観光客は20歳代から70歳代まで、偏りが少ない年齢帯分布
- 弟子屈が「初めて」が44%ある一方で、「10回以上」のヘビーリピーターも9%

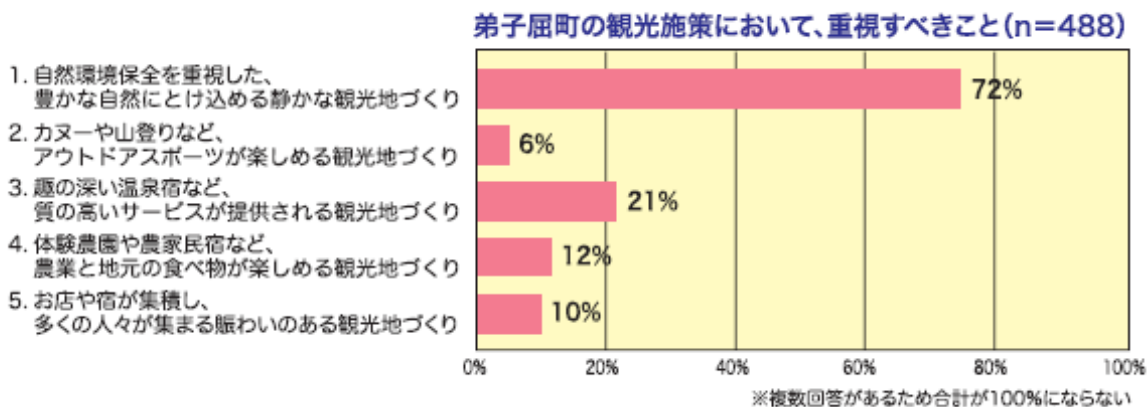


- 旅行形態は、個人手配が48%と最多、次いでパック旅行と団体旅行
- 弟子屈での交通手段は、「自家用車」「レンタカー」「貸切バス」がそれぞれ3割

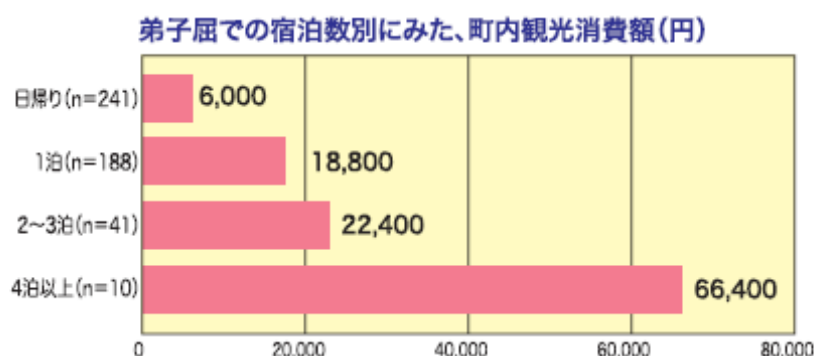
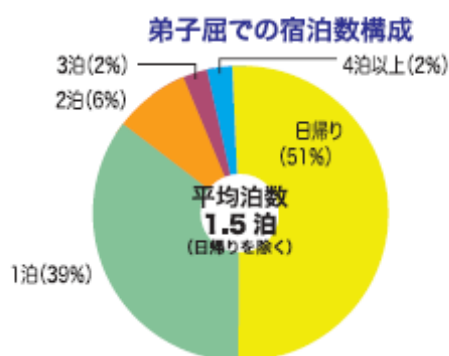


● 観光客が弟子屈町に求めるのは「自然環境重視の静かな観光地づくり」

「弟子屈町の観光施策において、重視すべきことは何だと思いますか？」という問いには、「自然環境保全を重視した豊かな自然にとけ込める静かな観光地づくり」が72%と大半を占めました。

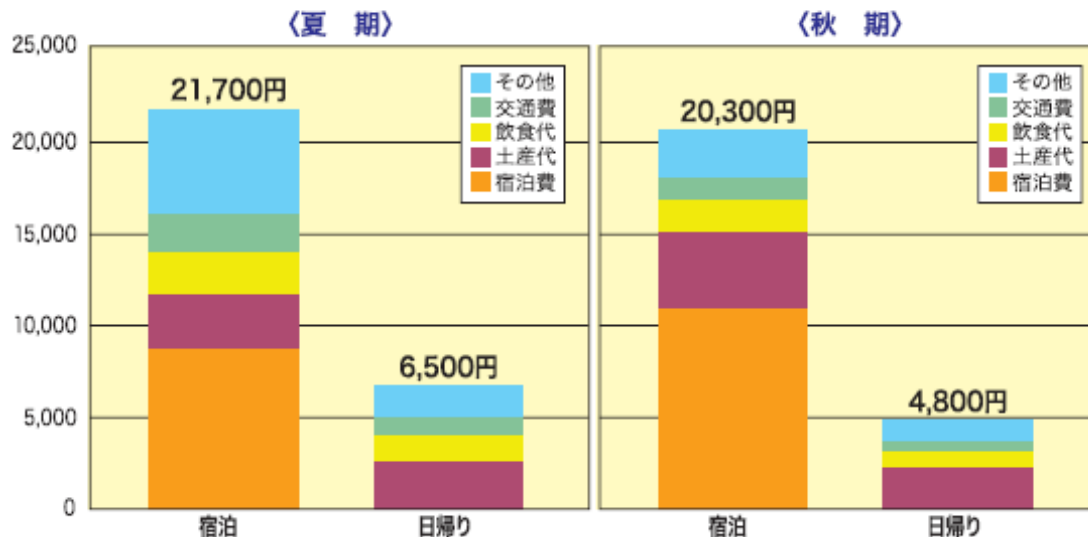


● 滞在日数が長くなるほど、消費額も大きくなる傾向

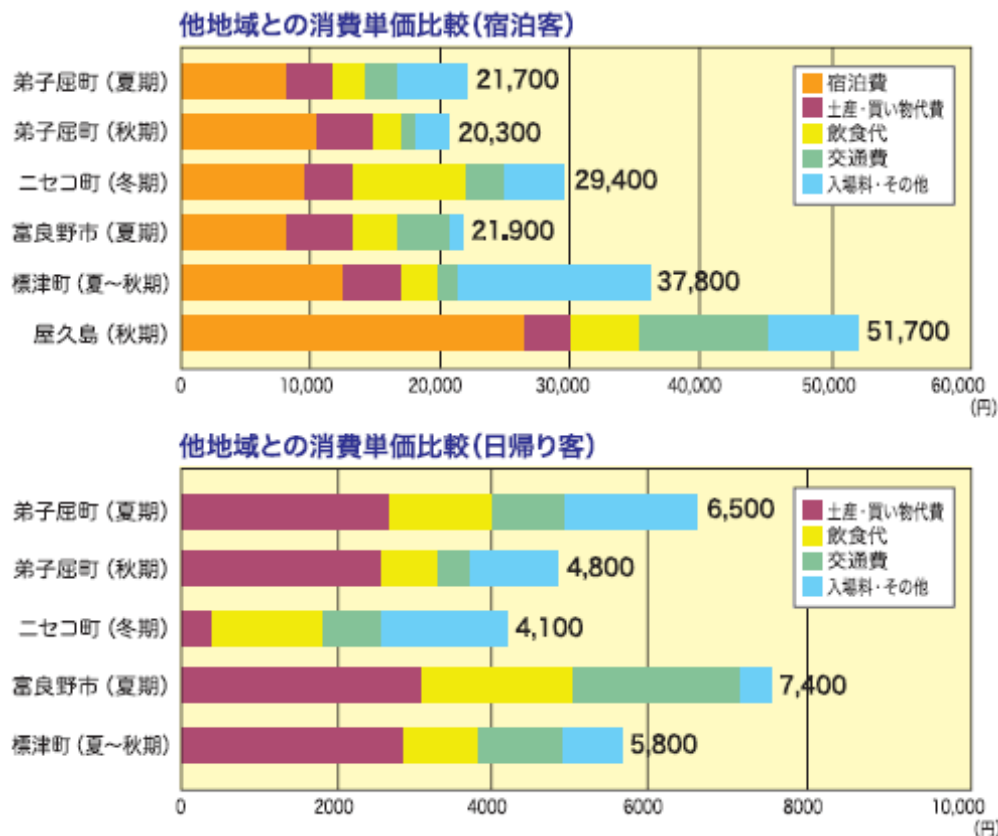


● 観光客消費は、宿泊客で2万円余り、日帰り客で5～6千円

観光客一人あたりの町内消費は、宿泊客で2万円～2万2千円、日帰り客で5～6千円程度となっています。日帰り客は、宿泊客に比べ、宿泊費や飲食費はもちろんのこと、土産代も少ない傾向があり、特に秋期の日帰り客の消費単価が低い状態です。



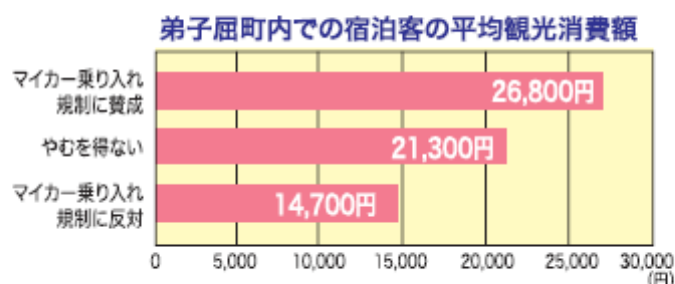
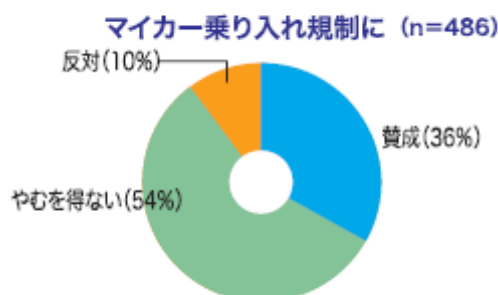
● 他の観光地に比べ、決して高い水準とは言えない弟子屈町の観光消費単価



※資料:「富良野市観光経済調査報告書」、「共生と環境の地域社会づくりモデル事業(屋久島地域)報告書」、「冬季観光の経済効果分析調査報告書」

- 摩周湖展望台へのマイカー乗り入れ規制に、賛成36%、やむを得ない54%
- マイカー規制に賛成する観光客は、町内消費額が高い傾向

「弟子屈町の観光施策として、摩周湖の貴重な自然景観を将来にわたって保全し次世代に引き継いでいくために、展望台への車の乗り入れを規制することについてどう思いますか。」との質問を実施しました。また、町内観光消費額と、マイカー乗り入れ規制への意見の関係を見ると、賛成意見の宿泊客は消費額が高く、反対意見の宿泊客は消費額が低い傾向がありました。



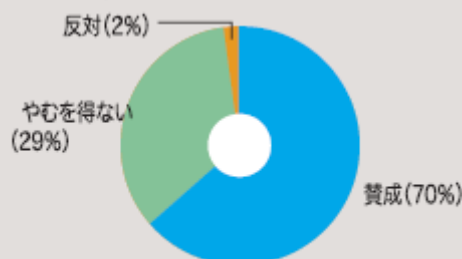
摩周湖マイカー乗り入れ規制実験の取り組み

「摩周・屈斜路環境にやさしい観光交通推進協議会」では、平成19年6月11日から17日の7日間にわたり、「環境にやさしい観光交通実験」として、「摩周湖でのマイカー規制による代替バス(摩周湖バス)の運行」「周遊バスの運行」「レンタサイクルの実施」「利用者特典クーポンの発行」「各種イベントの実施」など様々な取り組みを一体的に実施しました。

摩周湖バス利用者に対するアンケートの結果、「展望台への車の乗り入れ規制を将来にわたっても実施すること」について、「賛成」が70%、「やむを得ない」が29%であり、反対は2%でした。



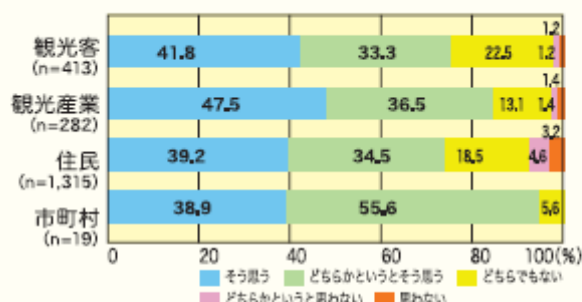
摩周湖の貴重な自然資源を将来にわたって保全し、次世代に引き継いでいくために、展望台への車の乗り入れを規制することについて。(n=881)



観光地の環境保全への取り組み意識

国土交通省では、環境保全に対して先進的な取り組みを行う19地域(弟子屈町「摩周湖」を含む)について、観光客、観光事業者、地域住民、地方公共団体に対する意識調査を実施しました。その結果、「観光地の景観や環境保全のためには一定の規制はやむを得ないか」との問いに対し、地方公共団体だけでなく、観光客、観光事業者、地域住民の7割以上から「そう思う」「どちらかというと思う」との回答が得られています。

観光地の景観や環境保全のためには一定の規制はやむを得ない



資料：観光白書(平成20年版)国土交通省編(平成19年度意識調査結果より)

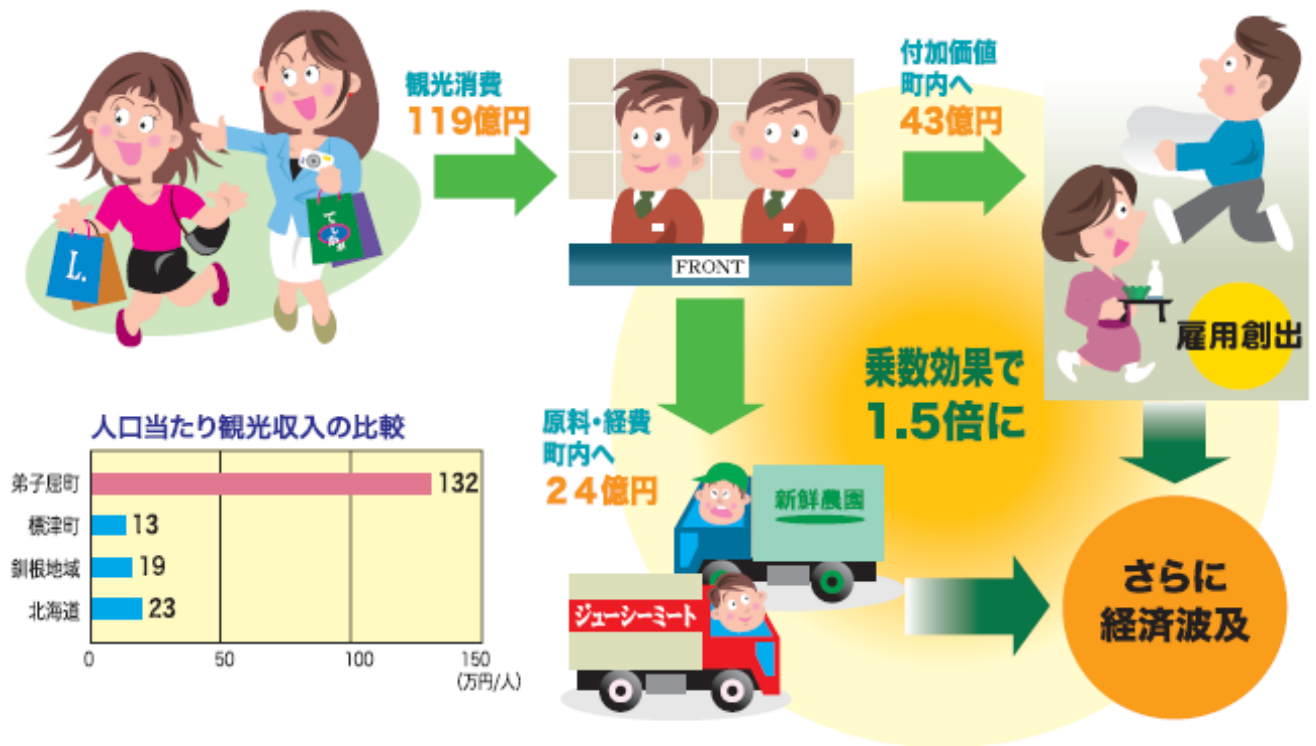
観光経済波及効果

- 町内での観光消費（観光収入）は119億円、波及効果は177億円（1.5倍）に
- 観光消費が町内のさまざまな業種の売上げに波及しています

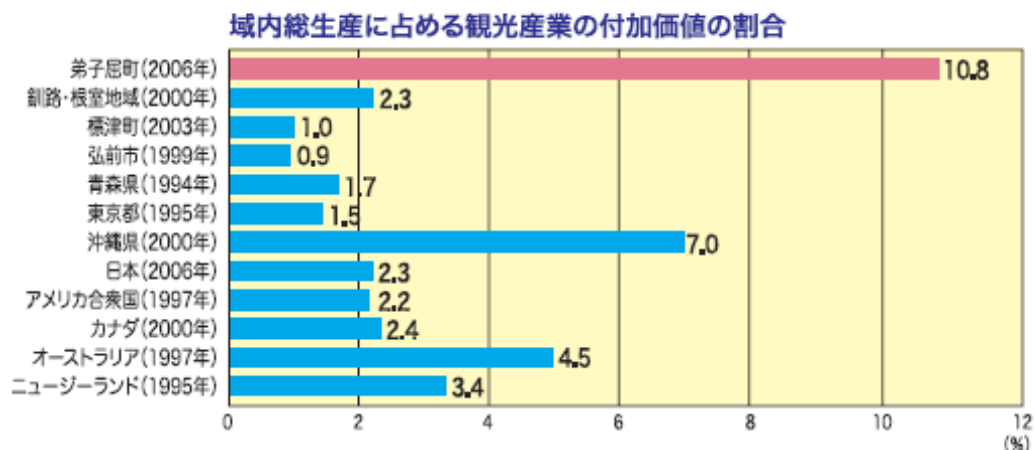
弟子屈町内の年間観光消費額（観光収入）は119億円となりました。北海道全体での観光消費額は約1兆3000億円と言われており、人口あたりで比較すると北海道平均の6倍の観光収入があることとなります。

観光消費119億円は観光産業の売上げとなり、町内に43億円の付加価値（人件費や利益などに相当）が生じます。これは雇用創出だけでなく、更に消費と収入のサイクルを呼び経済波及していきます（これを「所得波及効果」と言います）。

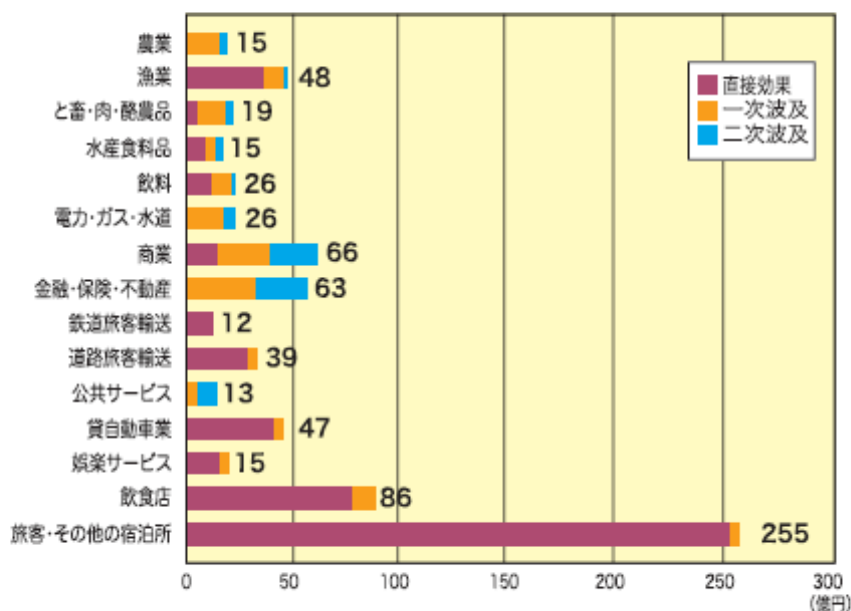
また、119億円のうち68億円は原材料や経費に充てられますが、町内で仕入れる分の24億円は所得波及と同様に、町内へ波及していきます（これを「原材料波及効果」と言います）。その結果、119億円の観光収入が波及効果として1.5倍となり、177億円の総売上げにつながります。



● 観光は弟子屈経済を牽引する基幹産業



● 様々な産業に波及する観光消費



釧路・根室地域の産業別にみる観光消費の生産波及効果
 (釧路公立大学地域経済研究センター・財団法人日本交通
 公社「地域観光の経済効果分析と地域自立型産業への
 展開に向けての研究」より)
 ※2000年度推計値

● 経済波及効果を高めるために

$$\text{観光経済効果} = \text{① 来訪客数} \times \text{② 消費単価} \times \text{③ 域内調達率}$$

これらを高めていくことが地域にとっての重要な目標

- そのために
- ① 地元食材を活かした料理の提供
 - ② 地元素材・加工による土産品の販売
 - ③ 魅力ある滞在のための体験メニューの提供
 - ④ 環境ブランドの確立

もし、こんなことができたら経済波及効果はこれだけ高まる

CASE 1 宿泊割合が増加したら

日帰り観光客の1割が弟子屈で
 宿泊するようになったら。



観光消費額 **9億円UP** → **128億円**

波及効果 **13億円UP** → **190億円**

CASE 2 原材料の町内調達率が高くなったら

レストランで地元野菜を使う地元産
 の土産品を増やすなどの取り組みで、
 町内調達率を現状の観光業36%、
 全産業39%から共に50%まで
 高めたとしたら。



波及効果 **20億円UP** → **197億円**



提言：観光産業の持続的発展に向けて

脱・通過型観光

ゆったりした滞在型観光地を目指す ステイ・ワン・モア

アンケート結果からも、滞在日数が長いほど観光消費額が高くなる傾向が明らかになっています。摩周湖などの目玉観光資源のみに頼ったこれまでの定番型観光だけでは、消費に対する動機付けも小さく、多様化しつつある観光ニーズに対応することは困難です。自然環境を活かした多彩な観光メニューや、ゆったり楽しめる弟子屈ならではのプランを提供し、何度でも訪れたい、何日でも逗留したい観光地づくりをしていくことが重要です。小さな事でも味わいのある観光メニューを開発し、情報発信していくことが大切です。

脱・環境を壊す観光

観光客とともに、環境にやさしいまちづくりを目指す エコのまち 弟子屈

観光客は、地域環境にとって、ゴミを散らかし植物を踏み荒らす迷惑なだけの存在でしょうか？ 一部のマナーの悪い人はいるでしょうが、環境を守るために協力しようと考えている観光客は大勢いることがアンケート調査結果からもわかります。今後は自然環境と観光の共生に向けて、観光客と地域が協力して積極的に自然を守っていくことが重要です。「環境にやさしいまち」の魅力にひかれて、何度も訪れたいような、弟子屈らしいエコツーリズムを目指していくことが大切です。

脱・域外調達

食産業と観光の連携による力強い観光産業づくり

弟子屈には酪農品やそば、メロンをはじめ良質の農産物が多く生産されています。観光客が求めているのは、地元で生産された食材の料理やお土産です。域外の材料を調達するのではなく、域内で生産された食材を観光客に提供することで、町内の観光消費を大きく高めることができます。また、町内で生産された食を提供することは、域内調達率向上につながり、地域の経済を力強いものへと育てていきます。宿泊施設や飲食店で提供される食だけでなく、土産品も含めて地元の素材を活用する視点を持ち地域経済の活性化を図っていきましょう。

脱・目先の利益の観光

“みんなで担う観光づくり”を目指す 地域経営の視点

観光業の皆さん、自分の店だけでお客を囲い込もうとしていませんか？ 目先の利益を追うことで魅力を下げてしまい、リピーターになってくれるはずのお客さんを逃がしているかもしれません。

地域内の幅広い産業や住民との連携を深めることで、経済波及効果は高まります。地域産業の持続的発展に向けて、目先の利益ではなく、地域経営の視点で観光を捉えることが重要です。みんなで一緒に取り組むことが弟子屈町の経済力を高め、将来はそれぞれの企業の利益にもつながるのです。

お問い合わせ先

釧路公立大学 地域経済研究センター

TEL : 0154-37-5325 FAX : 0154-37-5376 E-mail : r-center@kushiro-pu.ac.jp